

井の頭恩賜公園花便り



7月から9月にかけて、日本各地の湿地や小川などに見られる多年草です。株元は少し木質化し、細い地下茎を伸ばし群生します。高さ80cmほどになり、葉は細長く対生し、茎の上部で枝分かれした先端に、鮮やかな赤紫色の花が穂になって咲きます。昔はお盆に欠かせない花で、仏前に備えるため、農家の庭先や畑、水田脇の溝などで栽培されていました。

ミソハギ（ミソハギ科）

名前の由来

古くから仏壇やお墓に供える「精霊花」として親しまれてきました。花の样子がハギに似ており、盆の供物に水をかけて清める儀式に使われたことから禊萩（みそぎはぎ）と呼ばれ「ミソハギ」となったとも、湿り気のある溝に生えるので「溝萩（みぞはぎ）」が転じミソハギになったとする説もあります。

